

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 3 回 CCC 国際関係学グループ運営委員会議事概要

- I. 日 時：平成 21 年 10 月 27 日 午後 4 時～6 時
II. 場 所：社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者：多賀委員、林委員、大崎委員
事務局：井端事務局長、山野上

IV. 検討事項：

国際関係学における学士力の検討作業の段取りについて以下のように検討した。

1. 学士力作成のスケジュール、および概要

当協会では 11 月 14 日（土）の理事会に、学問分野ごとの学士力案を提示します。その後、文部科学省など、外部に提言としてアピールして参る予定です。

そこで、11 月上旬までには、「学士力作成」と「サイバーFD 研究員の意見を踏まえた改訂」の 2 回の委員会を開催いたします。

学士力は全ての学問分野共通のフォーマットで作りたいと考えており、以下のとおり構成いたします。

【到達目標】

【コアカリキュラムのイメージ】

【到達度】

【到達度の測定方法】

2. 学士力を構成する各項目の作成作業手順

【到達目標】

これはすでに完成しています。学士として身に付けるべき最低限度の能力を 6 点提示していたかと存じます。

【コアカリキュラムのイメージ】

「到達目標」および後述する「到達度」を実現するために必要な授業のイメージを何点か提示します。具体的、詳細な科目名ではないほうが望ましいと思われれます。本来各大学で考えるべき内容ですので、幅広のイメージを持たせること、また、先生方はそれぞれの考え方で授業を行っているので、あまり刺激しないようにという意図がございます。

【到達度】

到達目標として掲げた内容について、どういったことができるようになれば到達したと言えるのか、細かく（といっても数個程度ですが）定義していきます。

これについては、前回までの委員会で、言葉だけは出ていました。これを、「～～～ができる」、「～～～を理解できる」といった形に整理します。これは後述の測定方法とも密接に絡みます。測定できないもの、主観的なものは本項目としては相応しくありません。

【到達度の測定方法】

「到達度」で掲げた内容について、どうやって測定するのか、その方法を書いていきます。各到達度それぞれに測定方法を当ててもよいですし、到達度全体に対して測定方法を提示しても結構です。

3. これまでの検討状況

これまでの検討状況を改めて提示いたします。また、ほかの学問分野で確定したのもも添付いたしますので、ご検討ください。

(基本知識)

1. 現代の国家、地域、国際組織などで構成する国際関係の基礎的な仕組みとその背景を理解できる。

- ・ 主権国家体系の成立と変遷にかかわる知識を理解できる。
- ・ 人、物、金、情報の国境を越えた増加により、地球化・・・
- ・ 国民国家社会からグローバル社会へ、近代工業革命後から近代情報革命後社会に対応可能が学生を育成するために、以下の多重、多層の世界を縦横に行動する・・・

(スキル)

2. 国際的な課題等について、国家、地域、国際社会の観点から調査・考察し、多角的・複合的な分析ができる。

- ・ 文化、宗教、言語、政体が多様であることを理解できる。
- ・ 現実主義から理想主義までの多様な理論に基づいて国際関係を説明することができる。
- ・ 母語以外の複数の言語の習得
- ・ 調査、考察、分析能力

(態度)

3. 国際社会と国家、地域、個人との関係を認識し、国境を越えて協力し、支え合う態度を身につけることができる。

- ・ 異文化接触の実践
- ・ アイデンティティの確立と自者肯定、他者肯定
- ・ 協生の理解と環境・貧困などの地球的問題に対して協力して対処する行動力を身につけることができる。
- ・ 産業革命が生み出した構造的貧困を理解し、その解決法について、公正、人権に照らして・・・
- ・ 社会正義、社会的公正、人権、生存権、環境と貧困、飢餓、疾病、自然災害、難民、戦争 暴力の問題

(基本知識)

4. 現代の国家、地域、国際組織などで構成する国際関係の基礎的な仕組みとその背景を理解できる。

- ・ 主権国家体系の成立と変遷にかかわる知識を理解できる。
- ・ 人、物、金、情報の国境を越えた増加により、地球化・・・
- ・ 国民国家社会からグローバル社会へ、近代工業革命後から近代情報革命後社会に

対応可能が学生を育成するために、以下の多重、多層の世界を縦横に行動する．．．．

(スキル)

5. 国際的な課題等について、国家、地域、国際社会の観点から調査・考察し、多元的・複合的な分析ができる。

- ・ 文化、宗教、言語、政体が多様であることを理解できる。
- ・ 現実主義から理想主義までの多様な理論に基づいて国際関係を説明することができる。
- ・ 母語以外の複数の言語の習得
- ・ 調査、考察、分析能力

(態度)

6. 国際社会と国家、地域、個人との関係を認識し、国境を越えて協力し、支え合う態度を身につけることができる。

- ・ 異文化接触の実践
- ・ アイデンティティの確立と自者肯定、他者肯定
- ・ 協生の理解と環境・貧困などの地球的問題に対して協力して対処する行動力を身につけることができる。
- ・ 産業革命が生み出した構造的貧困を理解し、その解決法について、公正、人権に照らして．．．．
- ・ 社会正義、社会的公正、人権、生存権、環境と貧困、飢餓、疾病、自然災害、難民、戦争 暴力の問題

以上